



支



●



●



文



ちち

に



と

りて



きみ

に



つか

うるに

父に仕えるのと同じ気持ちで君に仕える

それは尊ぶことと敬うことである

曰

いわ

嚴

げん

敬

けい

と。

興

敬

曰

嚴

魚

塩

父母には心力の限りを尽くして孝行すべし

孝

こう

は

まさ

に

力

ちから

を

竭

つ

くすべし。



忠

ちゅう

は

則

すなわ

ち

命

めい

を

盡

つ

くせ。

盡

命

忠

則

東

侵

侵



ふか

のぞ

うす

ふ

深

きに

臨

むがごとく、

薄

きを

履

むがごとく。

忠孝の道を尽くすことは、深い淵にのぞむべく、
薄氷を履む時のように仕えよ。

朝早く起き冬は温め夏は涼しくする心配りをせよ。

夙

つと

に興

お

きて

温

おんせい

清

せよ。

温

清

夙

興

先

庚

蒸

蘭の香りに似るを目指して、道を修め徳を立てよ。

蘭

らん

の
斯

そ

れ
馨

かんば

しきに
似

に

、

斯

馨

似

蘭

支

青●

寒

松が色を変えないように、その誉れは讃えられるであろう。

松

まつ

の

盛

さか

んなるが

如

ごと

し。



支

魚



庚●

冬

川が休むことなく流れるように、徳行を積むならば、

川

かわ

は流

な

がれて

息

や

まず、



尤●

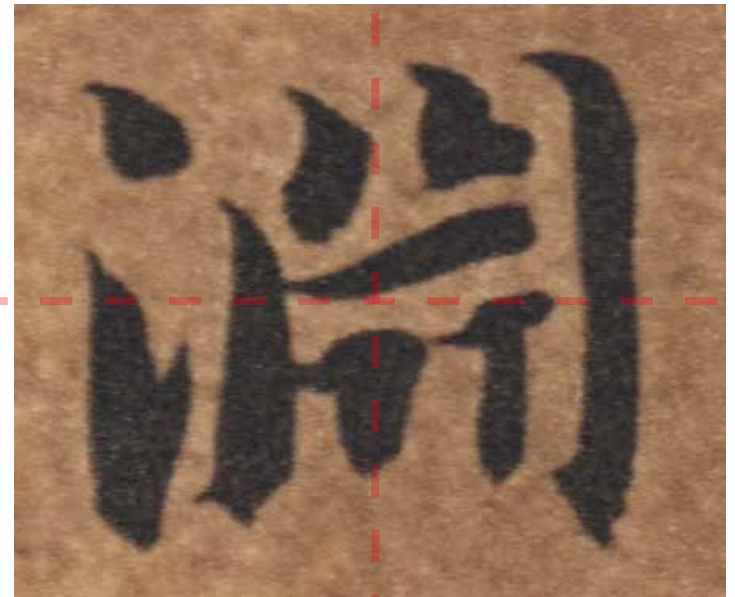
先



尤

先

蒸



淵

ふち

は澄

す

んで

映

えい

を取

と

る。

深い淵が万象を映し出して澄み渡るように
その人望も高まるであろう。